

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 6No. 1; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009250

1981・3 6_卷1_号

国立民族学博物館 研究報告



海外駐在員の生活と意識調査報告——栗田靖之・八村廣三郎

“悪い魚”と“良い魚”——Satawal 島における民族魚類学——秋道智彌

フルベ族，ジェンゲルベ・グループの移牧に関する事例報告——小川 了

国立民族学博物館の展示と

保存環境に関する検討——異常環境の発見を主として——森田恒之

背中あての諸形態——国立民族学博物館所蔵の標本資料によって——中村俊亀智



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

6 卷 1 号

1981年3月

目 次

海外駐在員の生活と意識調査報告	栗田 靖之	1
	八村廣三郎	
“悪い魚”と“良い魚”		
—Satawal 島における民族魚類学—	秋道 智彌	66
フルベ族, ジェンゲルベ・グループの移牧に関する事例報告	小川 了	134
国立民族学博物館の展示と保存環境に関する検討		
—異常環境の発見を主として—	森田 恒之	159
背中あての諸形態		
—国立民族学博物館所蔵の標本資料によって—	中村俊亀智	183
彙 報		209
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		213
国立民族学博物館研究報告執筆要領		214

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 6 No. 1

March 1981

KURITA, Yasuyuki	A Survey of Representatives of Japanese	
HACHIMURA, Kozaburo	Firms Overseas	1
AKIMICHI, Tomoya	Bad Fish or Good Fish—The Ethnoichthyology of the Satawalese (Central Carolines, Micronesia)—	66
OGAWA, Ryo	Note on Some Cases of Transhumance among the Fulbe-Jennelbe of Senegal	134
MORITA, Tsuneyuki	Microclimatic Conditions within the National Museum of Ethnology	159
NAKAMURA, Shunkichi	Notes on <i>Senaka-ate</i>	183

人事異動

(教育職) (採用)

10月1日 助手 八杉佳穂

館内各種委員会委員の異動

標本資料評価委員

氏名	任期
石沢 誠司	(55.11. 1～56.10.31)
太田 英蔵	(55.10. 1～56. 9.30)
河原 正彦	(55.11. 1～56.10.31)
小谷 方明	(55.10. 1～56. 9.30)
崎山 直	(55.11. 1～56.10.31)
高橋 春子	(55.11. 1～56.10.31)
森 淳	(55.10. 1～56. 9.30)

国際シンポジウムの開催

「中央アンデスの人間と環境」開催

日時 昭和55年12月19日(金)―26日(金)

場所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究所求是荘

摘要 このシンポジウムは中央アンデス地帯の文化・社会の全体的な理解にとっての基本問題をアメリカ合衆国, ペルー, 日本のアンデス研究者があつまり, 中央アンデスの社会・文化について環境利用の特性に関する研究情報を交換し討論を重ねたものである。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究部長

増田 昭三 東京大学教授

木村 誠 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

友枝 啓泰 国立民族学博物館助教授

委員

小谷 凱宣 国立民族学博物館助教授

藤井 龍彦 国立民族学博物館助教授

山本 紀夫 国立民族学博物館助手

久保庭伊佐男 国立民族学博物館管理部庶務課長

湯浅 叡子 財団法人民族学振興会千里事務局長

参加者

◎報告者

CAMINO, Alejandro

ペルーカトリック大学

FLORES OCHOA, Jorge A.

クスコ国立大学

MILLONES, Luis

ペルーカトリック大学

PEASE G.Y., Franklin

ペルーカトリック大学

RAMIREZ-HORTON, Susan

オハイオ大学

SHIMADA, Izumi

プリンストン大学

増田 昭三 東京大学

大貫 良夫 東京大学

友枝 啓泰 国立民族学博物館

山本 紀夫 国立民族学博物館

◎討論参加者

佐藤 信行 広島大学

鹿野 勝彦 財団法人リトルワールド

藤井 龍彦 国立民族学博物館

◎特別講演

川喜田二郎 筑波大学

日 程

12月19日(金)

14:15 国立民族学博物館見学

18:00 館長主催レセプション

12月20日(土)——国立民族学博物館

9:00 開会式

挨拶 梅棹 忠夫

FLORES OCHOA, J.A.

基調報告 増田 昭三

「中央アンデスにおける動態的地域
関係」

10:10 第1部

「中央アンデス東斜面における環境
利用体系」

12:40 第2部

「アンデスの農耕と牧畜」

17:30 カクテルパーティー

12月21日(日)——国立民族学博物館

10:00 第3部

「歴史的にみた海岸と高地の交渉」

14:00 第4部

「先スペイン期における海岸と高地
の交渉」

12月22日(月)

午前 自由行動

15:00 京都へ移動

18:00 谷口豊三郎氏主催晩餐会(萬養軒)

12月23日(火)

終日 自由行動

20:00 大津へ移動

12月24日(水)——求是荘

午前 自由行動

講演

14:00 講演

12月25日(木)——求是荘

10:00 第5部

「アンデス文化の統合性と地域性」
総合討論

14:00 シンポジウムのまとめ

16:15 ワークショップ 出版の打合せ

17:00 閉会式

挨拶 増田 昭三

MILLONES, Luis

18:00 財団法人民族学振興会千里事務局

主催 サヨナラパーティー(ホテル
レイクビワ)

12月26日(金)——ホテルレイクビワ

解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
石森 秀三	助手(第4研究部)	55.10.9	55.10.22	アメリカ合衆国信託統治領ミクロネシア
守屋 毅	助教授(第1研究部)	55.10.15	55.10.26	ビルマ, タイ
梅棹 忠夫	館長	55.10.16	55.10.28	中華人民共和国
櫻井 哲男	助手(第5研究部)	55.10.27	55.11.1	大韓民国
井狩 彌介	助教授(第2研究部)	55.11.1	55.12.24	スリランカ, インド
端 信行	助教授(第3研究部)	55.11.4	56.2.10	フランス, カメルーン
大胡 修	助手(第1研究部)	55.11.8	55.11.21	台湾
石毛 直道	助教授(第5研究部)	55.11.13	55.12.20	アメリカ合衆国
小山 修三	助教授(第4研究部)	55.11.13	55.12.27	アメリカ合衆国

彙 報

佐々木高明	教授 (第2研究部)	55.11.15	55.12.14	中華人民共和国
君島 久子	教授 (第1研究部)	55.11.15	55.12.14	中華人民共和国
大丸 弘	助教授 (第5研究部)	55.11.15	55.12.14	中華人民共和国
周 達生	外国人研究員 (第1研究部)	55.11.15	55.12.14	中華人民共和国
竹村 卓二	教授 (第1研究部)	55.11.23	55.12.11	タイ
藤井 知昭	助教授 (第2研究部)	55.11.24	55.12.14	中華人民共和国
福井 勝義	助教授 (第3研究部)	55.11.25	56. 9.24	連合王国, スウェーデン, ドイツ連邦共和国, フランス
吉本 忍	助手 (第2研究部)	55.11.30	55.12. 6	アメリカ合衆国
祖父江孝男	教授 (第1研究部)	55.12. 7	55.12.11	大韓民国
須藤 健一	助手 (第4研究部)	55.12.28	56. 1. 6	サイパン, アメリカ合衆国

来館者抄

10月4日 吉田 久 (東京医科歯科大学長)

10月30日 David W. PLATH (イリノイ大学人類学部教授)

11月5日 Emanuel V. SORIANO (フィリピン大学長)

11月12日 滕 穎 (中国社会科学院哲学研究所員)
中日友好学者 (第二次) 訪日代表团
梅 益 (中国社会科学院副院長)
肖 棣 華 (中日友好協会理事)
錢 鍾 書 (中国社会科学院文学研究所研究員)
牙 含 章 (中国社会科学院民族研究所所長)
谷 苞 (新疆社会科学院副院長)
劉 国 光 (中国社会科学院經濟研究所副所長)
倪 哲 明 (中国科学院環境化学研究所研究員)

王 進 甲 (中国科学院環境化学研究所工程師)

馬 驥 聰 (中国社会科学院法学研究所編訳室副主任)

李 克 世 (中国社会科学院外事局幹部)

姜 鎮 慶 (中国社会科学院歴史研究所編訳室責任者)

陳 鄂 生 (中日友好協会幹部)

11月13日 Zafar KAZMI (パキスタン・シンド州立博物館長)

15日 Michael SPOCK (ボストン・子供博物館長)

25日 Ismet GIRTLI (トルコ・イスタンブール大学教授)

12月2日 中国科学院教育代表团
胡 克 実 (団 長)
楊 海 波 (副団長)
錢 臨 照 (副団長)
楊 衍 明
鄺 明
王 文 濤
宗 惠 娟
姚 佩 君

12月3日 タイ国大学長代表団
Tonchan HONGLADAROM (プ
リンス・オブ・ソンクラ大学
長)
Kawee TUNGSUBUTRA (コン
ケン大学長)

Pisit VORAURAI (チェンマイ
大学副学長)
Twee HORMCHONG (スリナ
カリンヴィロト大学副学長)
Prabha SATTAYANON (学術研
究会議研究登録課長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 6卷1号

監 修
梅 棹 忠 夫
編集委員長
加 藤 九 祚
編 集 委 員
竹 村 卓 二
垂 水 稔
中 村 俊 龜 智
松 原 正 毅
吉 田 集 而
和 田 正 平

昭和56年3月31日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 6卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 6 no. 1
March 1981

- | | |
|---------------------|--|
| KURITA, Yasuyuki | A Survey of Representatives of Japanese Firms Overseas |
| HACHIMURA, Kozaburo | Bad Fish or Good Fish—The Ethno-ichthyology of the Satawalese (Central Carolines, Micronesia)— |
| AKIMICHI, Tomoya | Note on some Cases of Transhumance of the Fulbe—Jenngelbe of Senegal |
| OGAWA, Ryo | Microclimatic Condition within the National Museum of Ethnology |
| MORITA, Tsuneyuki | Notes on <i>Senaka-ate</i> |
| NAKAMURA, Shunkichi | |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X